


児童生徒の「生と死」のイメージ
に関する意識調査

平成17年1月24日

 長崎県教育委員会

児童生徒の「生と死」のイメージに関する意識調査

1 調査の趣旨

本県において2年連続して尊い命が失われる痛ましい少年事件が発生していることから、子どもたちに命の大切さをいかに教えていくかが強く問われている。

特に、佐世保市内の小学校で起きた児童殺傷事件の家庭裁判所最終審判の決定要旨によると、加害児童は自己の経験や共感に基づいた「死のイメージ」が希薄であるとのことであったが、このことは他の子どもたちについても危惧されるところであり、その実態を確認して今後の対応に生かす必要があると考えた。

そこで、現在の本県の児童生徒が「生と死」についてどのようなイメージや経験を有しているか、その傾向を把握するため、抽出児童生徒によるアンケート調査を実施することにした。

- ### 2 調査対象
- ・ 公立小学校の第4学年及び第6学年
 - ・ 公立中学校の第2学年

3 調査方法

- (1) 対象学年の児童生徒、各1,000人程度を抽出して実施。

県内6つの教育事務所の管轄地域単位で、地域ごとの児童生徒数を参考に調査児童生徒数を割り当て、その調査対象児童生徒数に見合うように教育事務所管内の学校を無作為に抽出した。

- (2) 実施校の学級担任が、特別に時間を設定し、必要に応じて補足説明を加えながら各教室で実施。

- ### 4 調査期間
- 平成16年11月～12月

5 回答した児童生徒の実数

学年 \ 教育事務所	長崎	佐世保	島原	五島	壱岐	対馬	計
小学校4年生	684	252	110	60	40	50	1,196
小学校6年生	680	304	107	60	40	50	1,241
中学校2年生	669	252	103	60	40	50	1,174

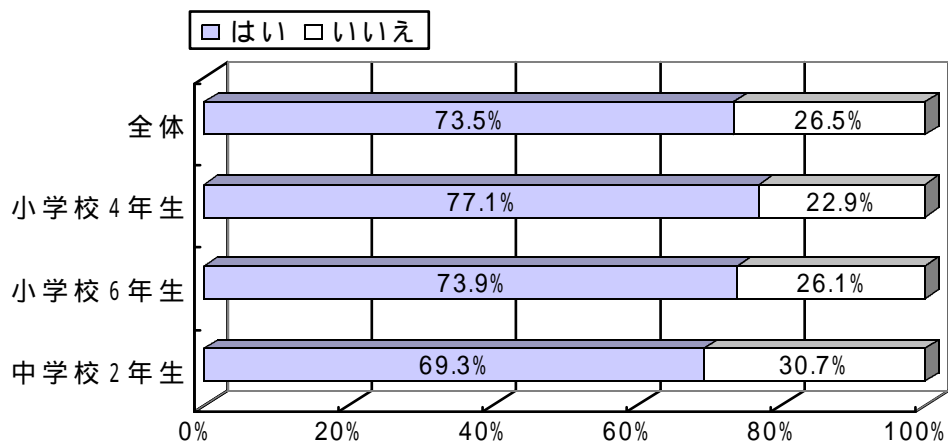
6 調査結果

(1) 赤ちゃんが生まれたときの喜び

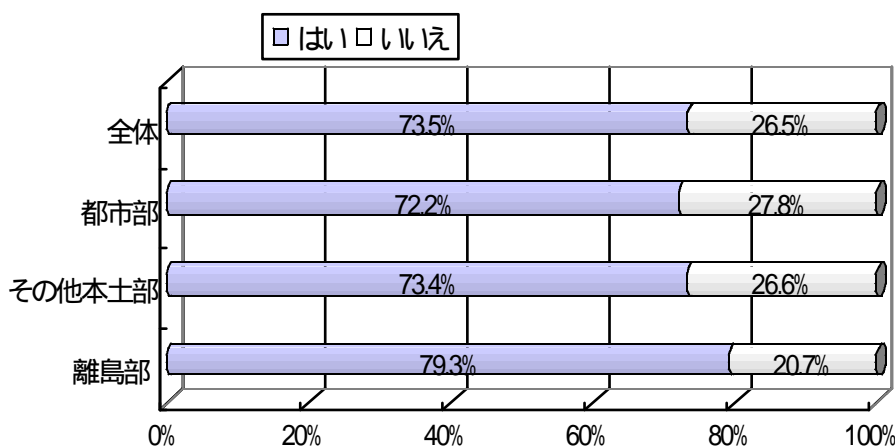
問1

家族や親戚などで、赤ちゃんが生まれたときの喜びを感じたことがありますか。

【全体】



【地域別】



都市部：人口5万人以上の都市

全体

全体として、26.5%の児童生徒が身近な人が生まれたときの喜びを感じたことがないという状況であった。その割合は学年が上がるにつれて高くなっており、中学校2年生では30.7%が誕生の喜びを感じたことがないという点は気になるところである。

地域別

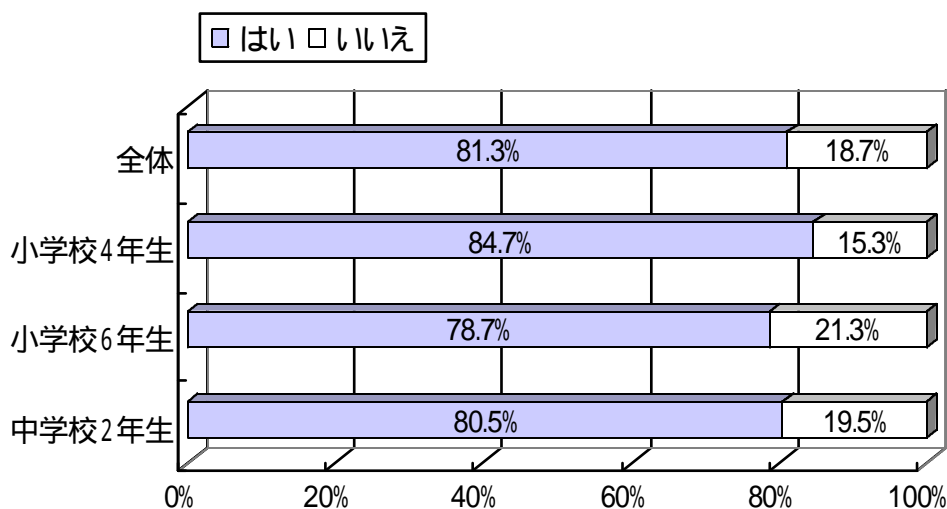
身近な人が生まれたときの喜びを感じている児童生徒は、都市部、その他本土部、離島部と増加傾向にある。離島部と都市部・その他本土部との間で差が表れており、子どもたちを取り巻く生活環境等の違いが背景にあると考えられる。

(2) 身近な人が死んだときの悲しみ

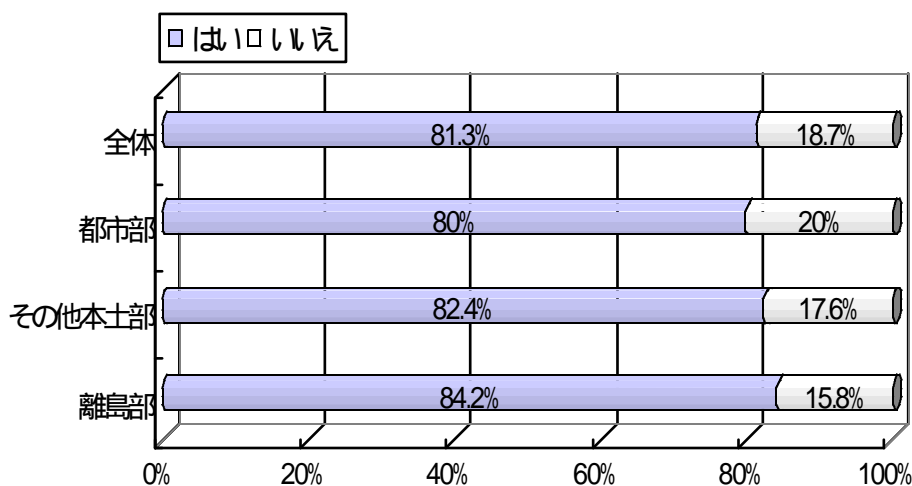
問2

家族や親戚など、身近な人が死んだときの悲しみを感じたことがありますか。

【全体】



【地域別】



全体

身近な人の死の悲しみを感じたことがある児童生徒の割合は、身近な人の誕生の喜び（問1）の場合よりも、全体として高くなっている。ただし、18.7%の児童生徒が、身近な人が死んだ悲しみを感じた経験がないという点は留意する必要がある。また、特に、小学校6年生が他の学年より低い割合を表している点は気になる点である。

地域別

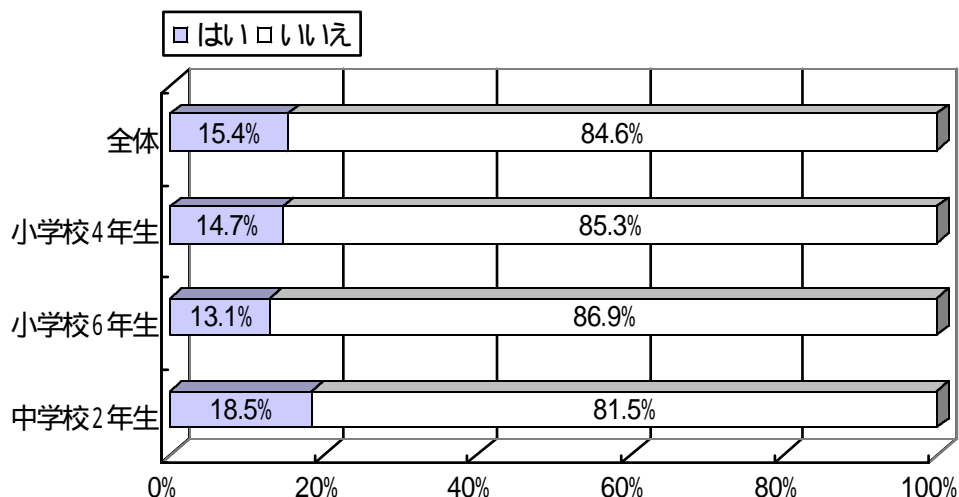
誕生の喜びと同様に、都市部、その他本土部、離島部の順に割合が高くなっている。また、離島部と都市部との間で割合の差が表れており、問1同様子どもたちを取り巻く生活環境等の違いによると考えられる。

(3) 死んだ人の生き返り

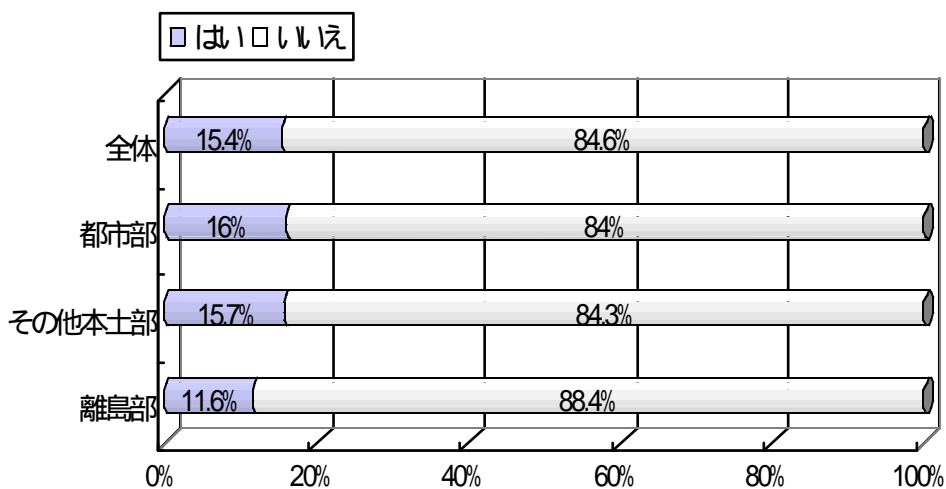
問3

死んだ人が生き返ると思いますか。

【全体】



【地域別】



全体

児童生徒の 84.6%は、死んだ人は生き返らないと思っている一方、生き返ると思っている児童生徒も少なからず(15.4%)いることが明らかになった。

また、学年別では、中学校2年生が 18.5%と最も高くなっており、予想外の結果であった。

地域別

死んだ人が生き返ると思っている児童生徒の割合は、都市部が 16%で最も高い。ここでも、離島部と都市部等との間で割合の差が表れており、都市化が進んだ地域ほど高くなる傾向を示している。

「死んだ人が生き返る」と答えた児童生徒の理由

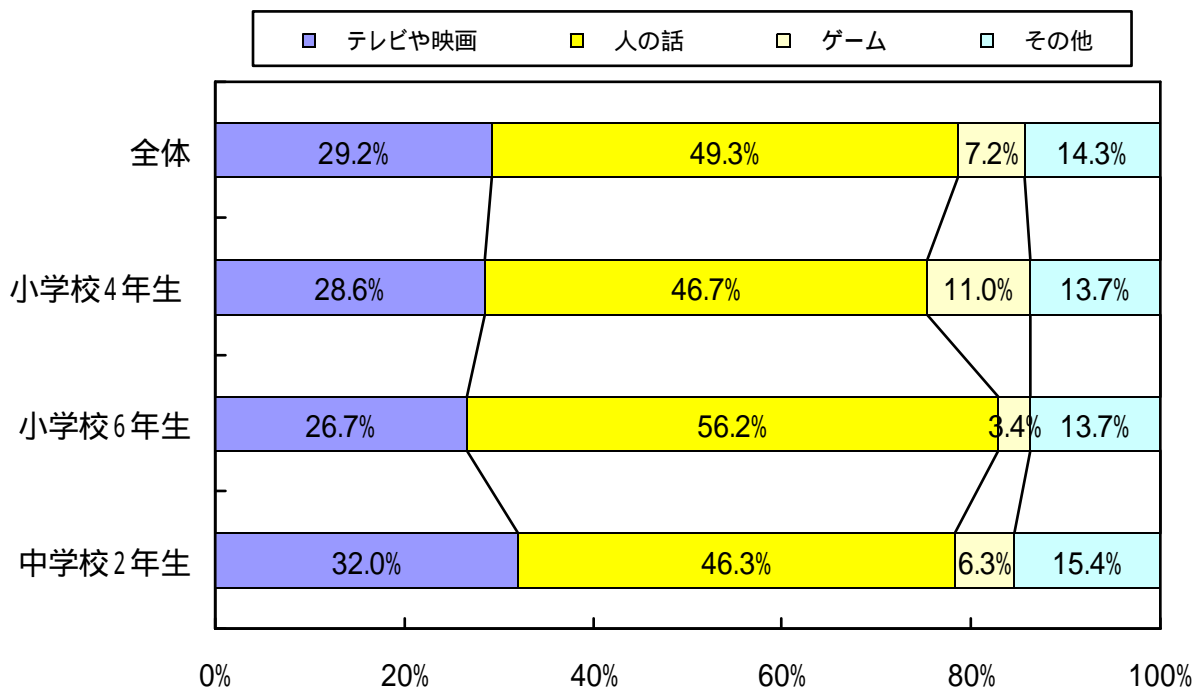
死んだ人が生き返ると答えた児童生徒に対し、次の ~ について担任の聴き取り等によってその理由を追跡調査した。

・ 回答児童生徒数

・ 小学校 4 年生	1 8 2 名
・ 小学校 6 年生	1 4 6 名
・ 中学校 2 年生	1 7 5 名
計	5 0 3 名

・ 再聴取項目

テレビや映画等で生き返るところを見たことがあるから
 生き返る話を聞いたことがあるから
 (テレビ等を見て・本を読んで・人の話を聞いて)
 ゲームでリセットできるから
 その他



その他の主なもの（記述回答）

[小学校]

- ・祈れば人は生き返ると思うから。
- ・よいことをしたら生き返ると思うから。
- ・人は死んでも生き返ると信じたいから。
- ・人は死んでも生き返ると信じているから。
- ・人は死んでもなんとなく生き返ると思うから。
- ・肉体はなくなっても心は残っていて、別のものとして生まれ変わると思うから。
- ・動物の命を人に移したらできるかも知れないから。
- ・人が死ぬより生き返ってほしいと思うから。
- ・医学や科学の進歩によって、死んでも生き返ると思うから。
- ・霊は死んでいないと信じているから。
- ・霊が出てくるから。
- ・人は死んでも生まれ変わって他のものになると思うから。
- ・死んだ人の罪を神様が許してくれて、もう一度チャンスを与えてくれると思うから。
- ・人は死んだら終わりだとすると悲しいから。
- ・宗教の教えで、人は死んでも生き返ると思うから。
- ・前世や来世があると思うので、人は死んでも生まれ変わると思うから。
- ・奇跡が起きるかもしれないと思うから。
- ・生き返ってほしいと思う人がいるから。

など

[中学校]

- ・医学が発展すれば人は死んでも生き返ることができると思うから。
- ・人は死んでも心の中に生きていると思うから。
- ・人は死んでも生き返ってほしいと思うから。
- ・人が生き返るといふのは違うと思うが、技術が発達すれば、血液や細胞からクローンできると思うから。
- ・死んだ人が生き返らなければ、地球上の命が尽きてしまうと思うから。
- ・幽霊が生き返ると思うから。
- ・人は死んでも他の生物に生まれ変わると思うから。
- ・人は心臓が一度止まっても、ショックを与える治療等によって生き返ることがあるから。
- ・人の魂は死んでいないと思うから。
- ・人は生まれ変わることができると思うから。
- ・人が死んだら生きていたときの記憶が消え、また別の人生を生きるのではないかと思うから。
- ・人は死んでも生き返ると信じているから。
- ・亡くなった人に似ている赤ちゃんが生まれてくるら。
- ・愛があれば、死んだ人が生き返ると思うから。

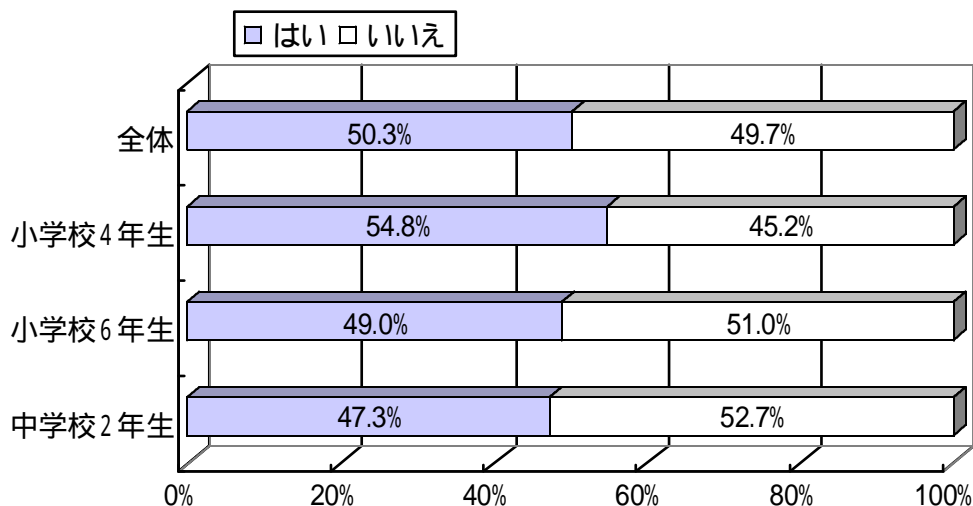
など

(4) 動物が生まれるところを見た経験

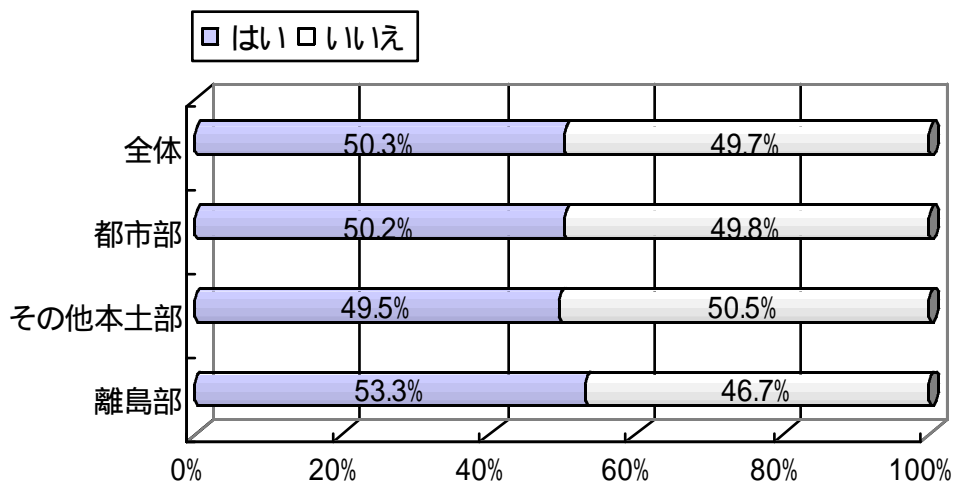
問4

動物が生まれるところを見たことがありますか。

【全体】



【地域別】



全体

動物が生まれたところを見た経験があると答えた児童生徒は50.3%であった。学年別では、小学校4年生が最も多く(54.8%)、学年が上がるにつれて低くなっている。

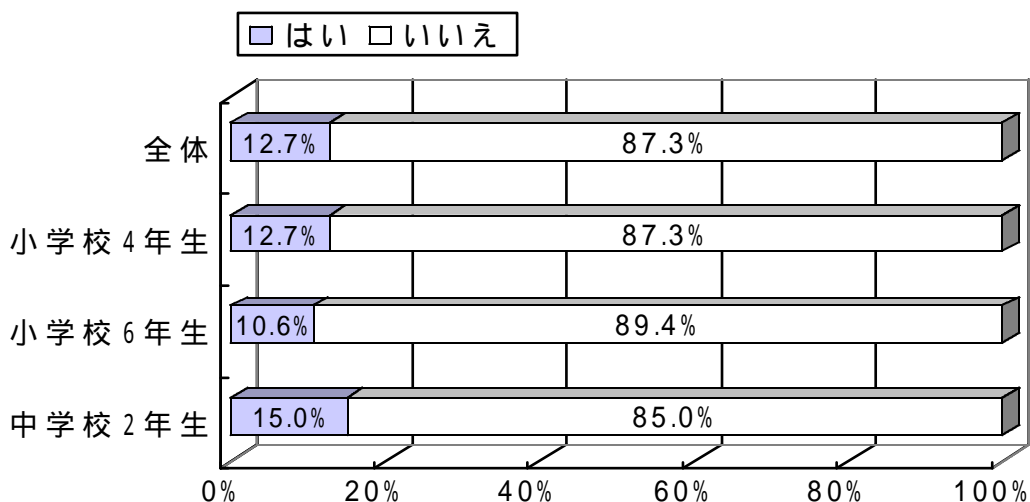
地域別

動物が生まれたところを見た経験があると答えた児童生徒は、離島部が最も高い割合(53.3%)を示しているが、都市部等との差が感じられる。

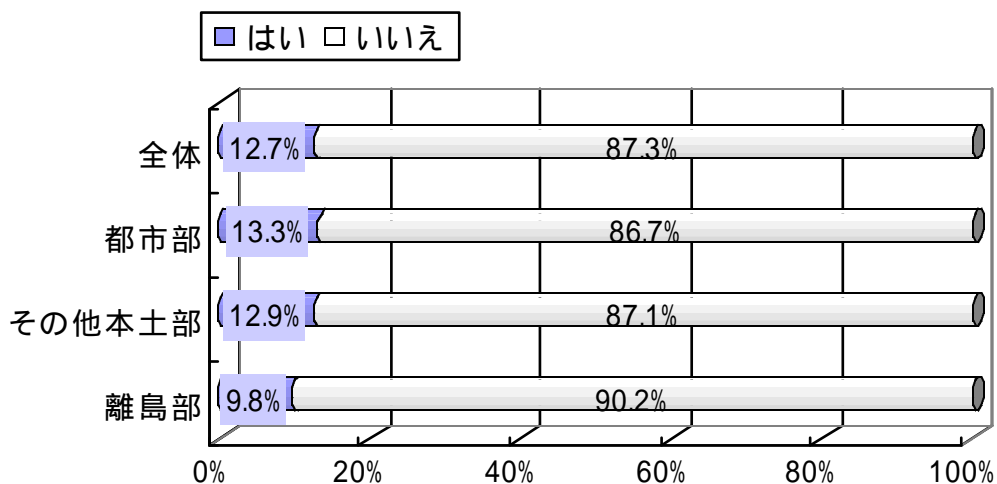
(5) 死んだ動物の生き返り

問5
死んだ動物が生き返ると思いますか。

【全体】



【地域別】



全体

全体として 87.3%の児童生徒が死んだ動物は生き返らないと思っている一方、生き返ると思っている児童生徒もいる(12.7%)ことが分かった。学年別では、小学校6年生が最も低く(10.6%)、人の場合(問3)と同様に、小学生よりも中学生の方が生き返ると思っている割合が高くなっている。

地域別

離島部では、死んだ動物が生き返ると思っている児童生徒は 9.8%であった。ここでも、都市部、その他本土部、離島部と数字が下がっており、離島部と都市部等との差が感じられる。

「死んだ動物が生き返る」と答えた児童生徒の理由

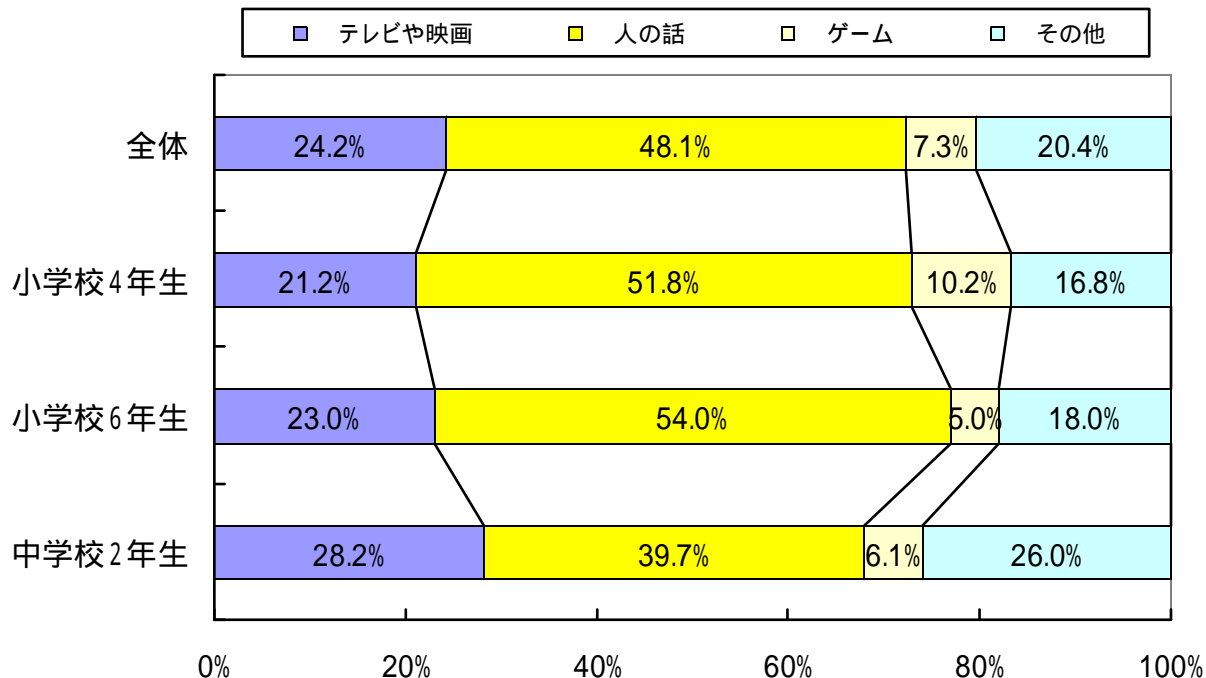
死んだ動物が生き返ると答えた児童生徒に対し、次の ~ について担任の聴き取り等によってその理由を追跡調査した。

・ 回答児童生徒数

・ 小学校 4 年生	1 3 7 名
・ 小学校 6 年生	1 0 0 名
・ 中学校 2 年生	1 3 1 名
計	3 6 8 名

・ 再聴取項目

テレビや映画等で生き返るところを見たことがあるから
 生き返る話を聞いたことがあるから
 (テレビ等を見て・本を読んで・人の話を聞いて)
 ゲームでリセットできるから
 その他



その他の主なもの（記述回答）

[小学校]

- ・飼っていた犬が死んで新しく犬を飼おうとした時、その犬が死んだ犬の生まれ変わりのように思ったから。
- ・死んだ動物は、別のもののに生まれ変わると思うから。
- ・死んだ人が生き返ったという話から、死んだ動物も生き返ると思うから。
- ・自分が飼っている猫が生き返ったから。
- ・奇跡が起これば、生き返らせることができると思うから。
- ・動物も人間と同じように生き返ってほしいと思うから。
- ・動物が死んでも他の命となって生き返ると思うから。
- ・死んだと聞いていた猫がまだ生きていたから。
- ・動物が死んでも何となく生き返るように思うから。
- ・人も動物も同じだと思うから。
- ・宗教の教えで死んだ動物は生き返ると思うから。
- ・動物は、何か生き返りそうな力を持っているような気がするから。
- ・前世や来世があると思うので、動物は死んでも生まれ変わると思うから。
- ・生き返ってほしい犬がいるから。
- ・動物が死んだら悲しいから。
- ・魂はずっと心の中にあって生き返ると思うから。

など

[中学校]

- ・技術が進歩すれば死んだ動物を生き返らせることができると思うから。
- ・生命力が強い動物は、死んでもまた動き出すと思うから。
- ・人の場合同じように、生き返ることとは違うと思うがクローン技術が進歩してきているから。
- ・人との場合と同じように死んだ動物が生き返らなければ地球上の命が尽きてしまうと思うから。
- ・死んだ人が生き返るならば、死んだ動物も生き返ると思うから。
- ・死んだ動物は、他の生物に生まれ変わると思うから。
- ・今飼っている犬が、動物医から「癌のために明日中には…」と言われながら、まだ生きているから。
- ・死んだ動物は、心臓マッサージ等で生き返ると思うから。
- ・死んだ動物が生き返るということが、自然の神秘の中で実際にあると思うから。
- ・飼っていたハムスターが死んだのに生き返ったことがあるから。

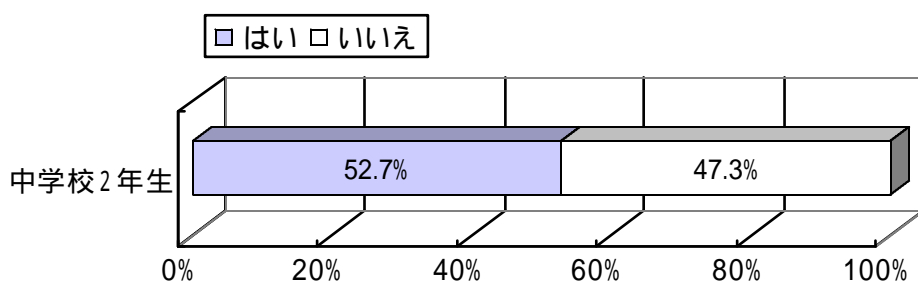
など

(6) 法律や制度(中学2年生のみ調査)

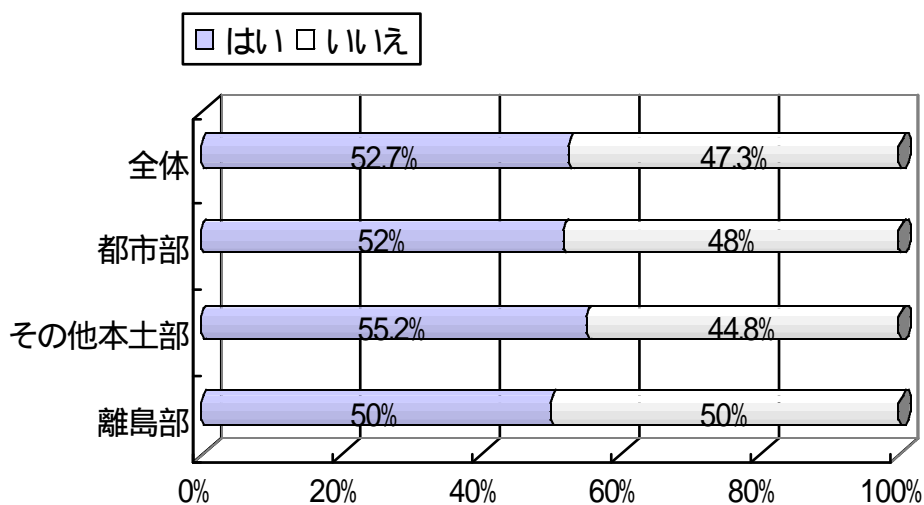
問6

人を傷つけたり、殺したりしたとき、どのような罰を受けるか、法律や制度について知っていますか。

【全体】



【地域別】



全体

法律や制度について知らないと自覚している生徒が 47.3%いることが明らかになった。

地域別

法律や制度について知らない答えた生徒の割合は、離島部が 50.0%と最も高くなっており、都市部等との差が感じられる。

7 調査結果の考察

(1) 死の認識について

本調査結果で最も注目したいことは、死んだ人が生き返ると思っている児童生徒が少なからずいた(15.4%)ということである。

生き返ると思っている児童生徒に対し、その理由を追跡確認したところ、多くの児童生徒が「生き返る話を聞いたことがあるから」(49.3%)や「テレビや映画等で生き返るところを見たことがあるから」(29.2%)を挙げるなど、人の話やテレビ、映画、本等から得られる情報をもとに死のイメージを形成しているように思われる。

また、その他(14.3%)の理由として「よいことをしたら生き返る」「肉体はなくなっても心は残る」「他の何かに生まれ変わる」等が挙げられている。これらには、生き返ってほしい、生まれ変わってほしいなどといった願望も含まれているようであった。

ゲームの影響についても確認してみたが、「ゲームでリセットできるから」という理由を挙げた児童生徒は比較的少数(7.2%)であった。しかし、たとえ少数であっても、子どもたちを仮想と現実の区別がつかない状況に陥らせるものであり、今日的な課題としてとらえておく必要がある。

さらに、小学生より中学生の方が生き返ると思っている割合が高かったことにも留意しておく必要がある。

今の子どもたちは、出産や葬儀などを含めた生活様式や社会環境の変化等から、以前と比べて人の誕生や死に直に接する機会が少なくなっていると思われる。今回の調査で、子どもたちは、自らの経験によるのではなく、周囲からの様々な情報の影響を受けて、死を認識していることが明らかになった。

(2) 生の喜びや死の悲しみの経験について

今回の調査では、佐世保市内の小学校で起きた事件の加害児童が自己の経験や共感に基づいた「死のイメージ」が希薄であったという指摘に関わって、今の子どもが、家族や親戚など身近な人の誕生や死に接し、その喜びや悲しみを感じた経験があるかどうかについても尋ねてみた。

結果、生の喜びは26.5%、死の悲しみは18.7%の子どもが、それらを感じた経験がないということが明らかになった。また、学年が上がるにつれてそうした経験を有する者の割合は高くなるのではないかという予想に反して、むしろ低くなる傾向にあったことは意外であった。離島部と都市部とを比較した結果の違いと併せて今後の課題と考えられる。

人や動物の生や死の場面に直に接し、喜んだり悲しんだり、他者の気持ちに共感したりすることは、人として成長する過程において欠かせないことである。学校教育においては、飼育や栽培などの体験活動を一層重視するとともに、家庭や地域においても、機会をとらえて、子どもたちに命の尊さを語り、「生と死」について共に考えることが求められる。

(3) 法律や制度の理解について

本県で2年続けて発生したような痛ましい少年事件の再発を防止するための方策について専門家に意見を聞いた際に、子どもたちに人を傷付けたり殺したりしてはならないことを教えることの重要性が指摘された。そこで、そのような行為を犯すとどのような罰を受けるか、法律や制度について中学生の理解の現状を尋ねてみた。

その結果、「知らない」と回答した生徒が47.3%いた。小・中学校では、社会科で裁判の仕組み等の基礎的な内容については学習するものの、通常の教育課程の中で、非行や犯罪とそこから派生する罰や社会的責任にまで踏み込んだ学習を受ける機会はほとんどない。

このことをこれからの課題としてとらえ、子どもたちに、人として犯してはならない行為、また犯罪者への処罰が歴史的にどういうところから考えられたのか等についても法制度を基に学ぶ機会が必要であると考えます。

8 今後の対応

今回の調査結果から、今の子どもたちには、命はただ一つ、かけがえのないものであること、一度失われると決して取り戻すことができないということを学校や家庭でしっかりと教えていかなければならないことを改めて痛感した。

このことを踏まえ、学校の教育活動全般における「心の教育」の在り方について総点検を行い、その充実を図るとともに、学校・家庭・地域社会が一体となった取組の一層の推進に努めていきたい。

県教育委員会では、現在、「命の大切さ」や「生と死の意味」など、児童生徒の発達段階に応じた「子どもたちの心に響く道徳教材」を作成中であるが、非行や犯罪行為を行うと、法的な制裁を受けるだけでなく、相手やその家族に大変な悲しみを与えることや、自分の家族に対しても多大な心配や迷惑をかけ、悲しい思いをさせることも含めて子どもたちにしっかりと伝えるための参考資料も準備しているところである。これを各学校へ配布し、計画的かつ効果的な学習機会の設定を図っていきたいと考えている。

(参考)

調査票 (小学校用)

小学生の皆さんへ

次の質問に「はい」または「いいえ」で答えてください。(どちらかにをつけてください。)

迷った場合も、どちらかといえばということでもいいので、必ずどちらかにをつけてください。

質 問	はい	いいえ
(1) 家族や親せきなどで、赤ちゃんが生まれたときの喜びを感じたことがありますか。		
(2) 家族や親せきなど、身近な人が死んだときの悲しみを感じたことがありますか。		
(3) 死んだ人が生き返ると思いますか。		
(4) 動物が生まれるところを見たことがありますか。		
(5) 死んだ動物が生き返ると思いますか。		

(参考)

調査票 (中学校用)

中学生の皆さんへ

次の質問に「はい」または「いいえ」で教えてください。(どちらかにをつけてください。)

迷った場合も、どちらかといえはということでもいいので、必ずどちらかにつけてください。

質 問	はい	いいえ
(1) 家族や親戚 ^{しんせき} などで、赤ちゃんが生まれたときの喜びを感じたことがありますか。		
(2) 家族や親戚など、身近な人が死んだときの悲しみを感じたことがありますか。		
(3) 死んだ人が生き返ると思いますか。		
(4) 動物が生まれるところを見たことがありますか。		
(5) 死んだ動物が生き返ると思いますか。		
(6) 人を傷つけたり、殺したりしたとき、どのような罰 ^{ばつ} を受けるか、法律や制度について知っていますか。		